

ものづくり、ロボコン全国大会

横浜で涙をのむ！

～港町、長崎－横浜間の荒波越えられず～

人生一生勉強道

登校するのあと少しとなり、残り少ない日数をどう過ごすかと考え、寂しさを胸一杯に感じている今日このごろ。

最近よく考えることといえ、卒業後、就職をするとは仕事ばかりでなかなか時間には余裕がでず、趣味や様々なことを自由に行う時間がないかということがあります。しかし、私はそれに常に反抗してたいのです。仕

十一月十四、十五日の二日間長崎を飛び出し、横浜で行われた電子回路組み立て部門、ロボコンの全国大会を取材してきました。

【事前インタビュー】

まずは全国大会を控えた選手への事前インタビュー。九州大会よりもさらに改良されているであろう技術を新聞部が事前に取材しました。

質問内容は

- ①全国大会と県大会での気持ちの変化はありましたか。
- ②改善したこと。
- ③目標・意気込み。

（電子回路組み立て）

D3 田中君

①特にないです。

②はんだ付けを特に頑張った。



【ロボコン全国大会】



▲開会式！全国の敵は多いのです



▲黙々と作業を行います

た。メッキ線が太くなった。優勝です！

③全国大会では今までと違い、課題が公開されていない。自信を聞くとまあまあとのことでしたが、冷静な雰囲気でした。

（ロボコン）

建築研究部

①そんなに変わらないです。

②モーターを速くすること。

③大村工業に勝つという目標は変わらない。とにかく失敗しないように全力で。ベスト八に入る。前の先輩が出した成績よりも上を目指す。

《ロボコンIN横浜》

さて全国大会の様子です。

横浜文化体育館で行われたロボコン全国大会。

出場チームは三三三チーム。競技方式は一回で二チームが同時に競技をする方式です。一回戦では六四チーム、二回戦では三三三チームと徐々に減っていきま

す。他の学校を見ると、満点を出していないところやタイムオーバーになるところ、ギリギリで終わる学校などさまざま。全国大会だからどの学校も満点で来ると思っていた私はビックリしました。

木木林MADは一回戦、順調にクリア。ベスト一六をかけた三回戦へ。二分を切ってしまうのではないかとというスピード。このまま三回戦も突破すると思われたものの、まさかの最後のボールを入れる場面で見失い、パーフェクトならず。ボールを拾うことも出来ず、そのままタイムアップ。選手はボールを落とした瞬間、頭を垂れてい

門学校や大学に進む人達には好きなことを学べる環境にあるところに憧れを抱いたから。専門的な事を学ぶことで、それを生かす仕事に就ける可能性は高く、何より自分の好きな事を追求できるのは楽しいことです。就職をしても、働ながら仕事を求めるために学ぶことができないかもしれません。しかし、直接収入には繋がらなくても、専門的な勉強をすることは自分の人生を豊かにすることになるのではないのでしょうか。

て悔しさが伝わってきました。そのままだパーフェクトであればベスト八も行けるという感じだったので初山先生も悔しそうです。

建築研究部はベスト三三という結果でした。

競技を終えた建築研究部にインタビューをしました。

Q.今の気持ちは？

A.悔しい・萎えた・もう喋りたくない気持ち。操作をしていないから分からないけれど、見ていて頑張っていたから悔いはないと思います。

建築研究部は来年もまたあるので、来年こそは上位を目指して頑張ってください。ますますの活躍を期待しています。

（追伸）その他九州勢の強さが目立っていました。全国大会優勝は熊本の高橋。県大会で優勝の大村工業の銀太郎改は一回戦をマシンが動かないアクシデントでギリギリで突破。しかしその後復調し見事準優勝。

《電子回路組み立て部門》

マイコンカーラリー九州大会 野中君、全国へ



▲審査中...お疲れ様でした。

開東学院大学で行われたものづくり全国大会。D3田中君が電子回路組み立て部門に出場。全国大会では当日まで課題が非公開で大会まで予想しながらの練習だったそう。

競技中の会場はとても静か。会場の教室には校長先生や松尾和宏先生の姿も。審査内容はプログラム・基板・設計・その他（作業の様子）。課題が出来ていないかなどを確認するプレ審査では全選手が一緒にプレ審査を行うため、見ている人にもどの課題の審査をしているかが分かりました。

さてプレ審査。課題は七つで、一つ一つ動作確認が行われました。全国大会だけあって前半はほとんどの選手が課題クリア。

このプレ審査で田中君は四つの課題をクリアしたものの、なぜか簡単なはずのモーターがどうしても回らないトラブルに遭遇。この課題がクリアできていたら

白熱したマイコン県大会も終わりに、ついに九州大会、全国大会へ。県大会では上位を占めた長工でしたが、はたして九州大会はどうなるのでしょうか。

本番前の選手達は、九州大会を控える選手達に目標を聞くと、「完走」と答える人がほとんどでした。県大会で優勝したM3川本君は「全国出場出来ればいいな」と、県大会優勝を目指してしまつたJ3野中君は「全国大会出場」と更なる舞台を目指していました。

十一月十四・十五日の二日間、ロボコンの全国大会（横浜）に新聞部が代表として私・水町と恵美子先生が取材に。（詳細は上と裏面に）トラブルと驚きの二日間、一端を書いてみます。十四日九時発の飛行機に乗るために向かった公安検査場でペットボトルを持つていた私は当然アウト。未開封だったのですぐに通してもらえ、ほっとしたのも東の間の機内アナウンスで東京近辺が悪天候で羽田空港が混雑、よって十五分間上空待機とのこと。早めの便に乗って良かったと思っていると、更に十五分の待機命令。その後何とサウナスに十五分待機！のアナウンス。しかし、機長が管制官に頼み込んだらしく、予定より一時間遅れての到着でした。余談ですが、羽田空港には大統領専用機が止まっていたそう。（建築研究部情報）

磨工業は一三位独占。ベタッとした薄いマシン。もたつかないで安定したマシンを作っていたけれど暴走したから。でも、来年後輩がやってくれればいい。今は野中君のサポート若しくはパシリとして頑張ります。宮崎のチキン南蛮は白身魚の味がした。

J3 野中君に聞く

「周りの選手のマシンが速いので緊張した。全国大会の切符はもらえただけ、あまり良い結果ではなかったから悔しい。今の気持ちをあいうえお作文にするならば、のんのんのん／＼やみ無用／力／ならまかせて、決勝には残れなかった。球

士のセッティングにしても軽く千円超え。無難に単品のそばを注文。長崎との値段の違いを実感。

全国産業フェアの会場であるパシフィコ横浜に行く。全国の実業系の学校の展示ブースがあり、工業・農業・水産業・商業など様々なジャンルで各学校の特徴を生かした展示や紹介を行っていました。実際に実験をしたり、機械を動かしたりという学校も。

ここで余談。展示見学中に現地？の女子高生を発見！...ん？笑われてる？よく聞くと「あの子スカイロングくない？ウケるんですけど。まじダサい。」その女子高生を見ると、スカイロングの下着のセーターから五センチ程度しか出ていない！いやいやそんな生徒は一部だけだろう。その淡い期待は周りを見た瞬間に見事に砕け散りました。皆さん同じ格好。そして足が綺麗！でも、とても危険すぎるでしょう、これは。意見・体験発表の取材では審査が長引き一時間以上も終了が遅れてその後の予定は大幅に狂い、長い時間座りすぎてスカートにはシワがついたとテンション下がりが気味の私に更なる悲劇が。 （続きは次号！）



青春日記

